

授業コード・科目名 (クラス)	単位数	年次	開講年度・学期	担当者
Class Code・Course Title	Credits	year	term	Instructor(s)
W047000 がん医療薬学特論	2単位	1年	2026年度後期	渡邊 真一、武智 研志、飛鷹 範明、村上 通康

1. サブタイトル Subtitle

最近のがんの薬物治療：薬剤師としての基礎と応用

2. 関連する教育諸方針 Course-Related Policies: Diploma and Curriculum Policy

この科目は、医療薬学研究科の学位授与の方針「高度な専門性をもって患者に最適の薬物治療を提供できる能力」および「薬物を適正に使用する上で生じる問題を科学的・社会的に解決できる能力」と関係する。

3. 授業科目のテーマと目的 Theme of the Course

がん治療専門薬剤師のための基盤となる知識、実践応用についての知識について、理論的・技術的背景、臨床への応用例を通して最近のがん薬物治療法の概念と具体化の方略を理解する。

4. 授業形態 Class format

メディア授業科目

5. 授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度 Course Description and Outline

第1回

タイトル：臨床試験データの読み方①

詳細：講義（武智）

備考：メディア授業。Teams利用、クラスやURLはメール等で告知する。

目的とねらい：がん医療重点コースおよび薬剤師に向けたがん薬物治療スキルアップコース（インテンシブコース）の授業

第2回

タイトル：臨床試験データの読み方②

詳細：講義（武智）

第3回

タイトル：がん治療に伴う難治性の副作用①

詳細：講義（渡邊）

第4回

タイトル：がん治療に伴う難治性の副作用②

詳細：講義（渡邊）

第5回

タイトル：がん治療に伴う難治性の副作用③

詳細：講義（渡邊）

第6回

タイトル：がん薬物治療総論

詳細：講義（村上）

第7回

タイトル：がん種別薬物治療

詳細：講義（村上）

第8回

タイトル：副作用対策全般

詳細：講義（村上）

第9回

タイトル：制吐療法 Up to Date

詳細：講義（村上）

第10回

タイトル：ICIとirAE

詳細：講義（村上）

第11回

タイトル：緩和医療総論

詳細：講義（飛鷹）

第12回 タイトル：緩和薬物療法(オピオイド鎮痛薬を中心に) 詳細：講義（飛鷹）				
第13回 タイトル：緩和薬物療法(鎮痛補助薬を中心に) 詳細：講義（飛鷹）				
第14回 タイトル：緩和薬物療法(副作用対策を中心に①オピオイド鎮痛薬など) 詳細：講義（飛鷹）				
第15回 タイトル：緩和薬物療法(副作用対策を中心に②鎮痛補助薬など) 詳細：講義（飛鷹）				
備考：メディア授業。Teams利用、クラスやURLはメール等で告知する。				
6. アクティブラーニング要素 Active learning				
事前学習型授業／対話・議論型授業／プレゼンテーション				
7. 利用教科書(入力) Textbook (s)				
書名(Title)	著者(Author)	出版社(Publisher)	ISBN番号(ISBN)	発刊年(pub,year)
8. 参考書(入力) Reference Book(s)				
書名(Title)	著者(Author)	出版社(Publisher)	ISBN番号(ISBN)	発刊年(pub,year)
※教科書・参考書以外の資料 Materials other than textbooks and Reference Books				
講義の都度、対応するプリント、学術論文などを配布する。				
9. 準備学習(予習・復習) Expected Work outside of Class				時間
履修登録の対象者には事前にプリント配布と学習ガイドラインを示すので、それに従って予習を行うこと。				1.0 時間
講義後にまとめレポートの作成を行う。				3.0 時間
合計時間	4.0時間			
10. フィードバック Instructor Feedback				
課題レポートについてフィードバックする。				
11. 評価の方法・基準 Criteria for Evaluation				
レポート80%、授業への取り組み20%で評価する。レポートの提出は、授業内容に関するテーマについて4回程度を予定している。				
12. 学習の到達目標 The Main Goals of the Course				
第1、2回 がん薬物療法に必要な医薬品情報学の理論・方法について論理的に説明できる。疫学的調査方法について例を挙げて説明できる。				
第3～5回 がん化学療法の際に生じる薬剤の副作用とその対処方法について、例を挙げて論理的に説明できる。				
第6～10回 がん化学療法における薬剤師の果たすべき役割と問題解決の方略について、臨床上のエビデンスを例に説明できる。				
第11～15回 がん緩和医療における薬剤師の果たすべき役割と問題解決の方略について、臨床上のエビデンスを例に説明できる。				
13. その他留意事項について Additional Instructions / Comments to Students				
14. ナンバリング Numbering				
15. 実務家教員 Practitioner-Teacher				
各担当者が病院等での勤務経験を活かして、臨床におけるがん薬物療法の実際について講義を行う。				
16. 曜日時限 Schedules				